

## 二〇一九年度活動記録

### 《公開シンポジウム》

- 「室町時代源氏絵研究の最前線」
- 日時 二〇一九年十二月十五日(日) 一三時三〇分～一八時
- 場所 立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館三階  
カンファレンスルーム
- 内容

一九八九年に個人蔵の「扇面画帖」(現在、九州国立博物館蔵)、一九九三年にハーバード大学美術館の土佐光信筆「源氏物語画帖」が発見されて以来、毛利博物館の「源氏物語絵巻」など、室町時代の源氏絵の発見・紹介が相次ぎ、研究が活性化している。本シンポジウムでは、九州国立博物館にて「扇面画帖」の修理に当たった鷺頭桂氏、「扇面画帖」を紹介した片桐弥生氏、毛利博物館の「源氏物語絵巻」を紹介した龍澤彩氏、室町時代土佐派研究の第一人者である高岸輝氏をお招きして、室町時代の源氏絵研究の成果をご発表いただくとともに、今後の展望を語っていただく。

#### ● 講師

- 鷺頭桂 (東京国立博物館主任研究員)
- 「集められた扇絵——九州国立博物館所蔵「扇面画帖」の修理報告」  
片桐弥生 (静岡文化芸術大学教授)
- 「九州国立博物館蔵「扇面画帖」中の源氏絵扇面について——制作年代と筆者の問題を中心に——」  
龍澤彩 (金城学院大学教授)

「毛利博物館所蔵「源氏物語絵巻」から見る室町時代源氏絵」  
高岸輝 (東京大学准教授)

「ハーバード大学美術館所蔵「源氏物語画帖」にみる土佐光信の構図と空間表現」

- パネルディスカッション

「パネラー」

片桐弥生、高岸輝、龍澤彩、鷺頭桂

「ディスカッサント」

- 稲本万里子 (恵泉女学園大学教授)
- 青木慎一 (立教大学文学部兼任講師・日本学研究所研究員)
- 司会 井野葉子 (立教大学文学部教授・日本学研究所副所長)
- 主催 立教大学日本学研究所科  
科学研究費補助金(基盤研究B)「オントロジーに基づく源氏絵データベースを共有・活用した源氏絵の総合研究」(研究代表者：稲本万里子) (17H02995)
- 共催 立教大学文学部日文専修、立教大学文学研究科日文専攻、立教大学日本文学会

### 《公開セミナー》

- 「東アジアのなかの武家家訓」
- 日時 二〇一九年七月十六日(火) 一七時一〇分～一八時五〇分  
二十九日(日) 一〇時～一八時三〇分
- 場所 立教大学池袋キャンパス 五号館一階 第一会議室

● 内容

日本における家訓の成立については中国の家訓の影響が指摘されてきたが、日中比較文化史の観点から十分な検討がなされてきた訳ではない。本セミナーでは、日中比較の観点から武家家訓について研究を進めている許譯兮氏をお招きして、「日本の武家家訓と中国の家訓」について発表していただくとともに、日本における古文書学・法制史研究の立場から佐藤雄基が「鎌倉期の武家家訓」と題する発表を行い、日本・中国双方の家訓研究の成果と課題を確認するとともに、日中比較史への展望を示す。

● 講師

許 譯兮 (天津師範大学外国語学院日本語学部副教授、立教大学日本学研究所特任研究員)

- 主催 科学研究費補助金(国際共同研究強化A)「書状形式の文書を軸とした比較古文書学の基盤形成」中世日本と中国・韓国・ヨーロッパ(代表者:佐藤雄基) (JSPS:18KK0335)

● 共催 立教大学文学部史学科

《研究例会》

● 第六二回研究例会

「第五回 海外の日本文化研究——その動向と可能性——」

- 日時 二〇一九年七月十三日(土) 一八時三〇分～二〇時四五分
- 場所 立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館  
カンファレンスルーム

● 内容

立教大学は多くの留学生が在籍し、スーパーグローバル大学(グローバル化牽引型)にも指定されており、研究の国際化や国際交流の中核を担う大学として期待されている。しかしながら、本学の留学生の研究内容やその問題意識は、学生や教員間において必ずしも十分に共有されているとはいえない。本例会では、今後海外において日本文化研究を推進していくであろう留学生たちによる研究発表を行う。海外各国における日本文化研究の動向や関心についても発表者による報告を行い、世界における日本文化研究の今後の方向性や可能性について議論したい。

● 講師・演題

Aatke van Ewijk (ライデン大学大学院博士後期課程)

「近代日本児童文学と武者のパンテオン」

THEERAKITTIKUL SUWAPA (チュラロンコン大学大学院博士課程)

「真名本『曾我物語』における「頼朝の夢」——神仏説話との関わりから——」

王尊龍 (立教大学文学研究科史学専攻博士課程後期課程)

「琉球王国における漢詩の受容と展開を再考する——日中文壇からの影響を中心に——」

黄晓星 (北京外国语大学中国言語文学学院博士後期課程)

「『使琉球録』からみた明清時代の対外認識」

● 司会・コーディネーター

鈴木 彰 (文学部文学科教授・日本学研究所所員)